

十勝岳山麓

探索ガイド

上富良野
コース



火山の恵みに触れる

災害の歴史を知る

防災対策を学ぶ

十勝岳 噴火の歴史

今見ることのできる十勝岳の山々ができ始めたのは、諸説ありますが今からおおよそ20万年前ごろと考えられています。主峰の十勝岳は現在も活発に火山活動を続けており、1926年(大正15年)・1962年(昭和37年)・1988～1989年(昭和63年～平成元年)と、20世紀中に3回の主な噴火が起こっています。1926年5月の噴火では、熱い岩なだれが残雪をとかして泥流が発生し、ふもとへと流れ下って144名の死者・行方不明者が出ました。1962年6月の噴火でも、鉱山や気象台職員の方16名の死傷者が出ています。また、1988年12月から翌1989年3月にかけて、小さい規模ではありましたが20回を超える噴火が起きました。12月25日(クリスマス)深夜の噴火では、火柱が上がり、熱い岩や火山灰(小型の火砕流)が雪の上を走る様子が気象台によって撮影されました。



1926年噴火の泥流
(当時の上富良野市街地)
写真:上富良野町教育委員会



1962年噴火の噴煙の様子
(1万m以上の高さに上昇)
写真:大場嗣 氏



1988年噴火の様子
(火柱と雪の上を走る火砕流)
写真:旭川地方気象台

1 上富良野町開拓記念館

大正泥流の被害の様子を知ろう

上富良野町開拓記念館は、大正泥流災害当時の上富良野村長(吉田貞次郎さん)の住まいを復元したもので、大正時代の生活の様子をうかがい知ることができます。記念館の中には、大正泥流の被害にまつわる新聞記事や写真、また大正時代ではたいへん貴重だった8ミリ映像の展示があり、被害の様子が紹介されています。記念館の周りは公園になっています。



中を見学されたい時のお問い合わせ先
上富良野町教育委員会 電話(0167)45-5511

記念館の駐車場から車道に出る所に神社があり、鳥居を左手に見ながら奥に進むと、大正泥流の様子をつづった作家・三浦綾子さんの小説「泥流地帯」の碑があります。



大正泥流当時の8ミリ映像



「泥流地帯」の文学碑

2 草分防災センター

土で盛って造ったセーフティゾーン

草分防災センターは、周りの土地より少し高い所に建っています。上流のダムにたまっていた土砂を掘った時に、ここに持ってきて、高台を造りました。大正噴火の時の泥流は、この付近で厚さが1mぐらいあったようですが、それよりも高く造られており、噴火の時の避難所として使うようになっています。三角屋根の塔からは、火山の様子を見張ることも出来ます。



盛り土による高台に建てられた
草分防災センター

毎年2月には、この施設も利用した大きな防災訓練も行われています。普段は広場や公民館としても利用されます。



防災訓練の様子



草分防災センター脇の広場

3 十勝岳爆発遭難記念碑駐車公園

大正泥流に埋もれていた大きな岩

遭難記念碑の土台となっている直径4mにもなる大きな岩は、大正泥流に埋もれていたものと言われています(記念碑横の看板に昔の写真があります)。富良野川が現在流れている場所より高い所まで、泥流が溢れて流れたことが分かります。下の写真中、オレンジの線は泥流の本流が流れた幅で、記念碑の大岩はそのほぼ端にあります。



泥流は大きな岩だけでなく、森林を破壊して多量の流木も伴ったため、市街地で多くの家や田畑を破壊しました。大正泥流を体験された方のお話で、この付近の泥流のスピードは、人が走るよりもずっと速かったことが分かっています。

公園入口の標識



4 白金温泉・十勝岳流路工

温泉街の中に造った泥流を流す水路

大正噴火の時の泥流は、現在の白金温泉の温泉街を溢れるように流れました。そこで、泥流の流路を固定し、安全に下流へと流すため、「流路工」と呼ばれる水路が作られました。普段の流路工は親水公園としても利用できるように、水路や歩道が付けられ、溶岩などの自然の石を使うことで、山々の風景にも馴染むように工夫されています。



白金温泉街から見た流路工

温泉街から望岳台へ向かう道を少し上がった所に橋があります。橋の上流側には、泥流の土砂を一度ためて流れの勢いを弱める砂防えん堤(ダム)が見えます。橋の下流側では、流路工の全景を眺めることができます。



砂防えん堤(橋の上流側)



流路工(橋の下流側)

5 十勝岳火災砂防情報センター

火山と砂防を学ぶ施設

このセンターは、十勝岳の様子を24時間監視すると共に、火山砂防事業に関する様々な情報を発信しています。また、広い駐車場とヘリポートを兼ねた広場が設置され、美瑛川河床から100mほど高い台地の上に建てられているので、泥流の発生に備えた避難所としても利用することになっています。



電話(0166) 94-3301
開館時間
5月~10月 午前8時半~午後5時
11月~4月 午前10時~午後4時(火曜休館)

施設の1階には、火山泥流などを迫力ある映像で疑似体験できる3Dシアターや、クイズ・ゲームコーナー、見る方向を手で操作できる監視カメラモニターなどがあります。2階には、火山や十勝岳の自然に関する情報展示があります。3階には集中管理室がありますが、入室許可が必要です。



1階 3Dシアター



2階 標本などの展示コーナー

6 望岳台

活火山・十勝岳の息吹と恵み

天気の良いときは、望岳台から、白い噴気を上げる火口の様子がよく見えます。現在一番活発に噴気を上げているのは1962年(昭和37年)の噴火でできた62-2火口です。その左隣に、まるでスプーンでえぐったように開いた地形が見えますが、これが大きな災害をもたらした1926年(大正15年)の大正噴火による火口です。火口下の斜面が、少し黄色っぽく滑らかになっていますが、ここが大正噴火で崩れた岩・砂・粘土などがたまっている所です。望岳台レストハウスの脇には、様々な観測機器が置かれています。公衆トイレの奥には、火口の様子や泥流の発生を24時間監視するカメラを付けた塔が建っています。



望岳台から眺めた火口の様子



監視カメラ



望岳台レストハウス
営業期間:4月~10月

7 吹上温泉

火山の麓にある恵み(温泉)

吹上温泉は自然湧出しているお湯で、十勝岳温泉、白金温泉と並び称される十勝岳連峰有数の温泉です。明治30年に発見されたと言われていいます。吹上温泉は1962年の噴火以後、1988年までは温泉の温度がどんどん下がり、入浴には適さないほどでした。吹上温泉保養センター白銀荘しかし、その後の1988～1989年の噴火以後、温泉の温度はどんどん上昇し、化学成分も変化したため、再び温泉として脚光をあびるようになりました。



緊急の際のヘリポートもあります



写真:かみふらの十勝岳観光協会



吹上温泉露天の湯

8 日の出公園(ラベンダー畑)

火山の麓にある恵み(豊かな農地)

日の出公園は上富良野町立の公園で、1948年に日本で初めてラベンダーが植えられた町営のラベンダー園でもあります。この丘は、今からおよそ100万年も昔に起きた巨大噴火により、大規模な火砕流が流れてできたものです。花々が生えている地面を観察すると、水はけの良い軽石や火山灰でできていて、乾いている時は白っぽい色をしています。丘の上からは、上富良野町市街地が一望でき、良く晴れた日は十勝岳連峰や富良野盆地、大雪山の方まで見渡すことができます。



写真:かみふらの十勝岳観光協会



日の出公園の展望台から眺めた十勝岳連峰

吹上温泉～望岳台 登山道コース

軽登山者向けの見学ポイントです

9 望岳台・探勝路

溶岩の岩場に住む生き物たち

望岳台のそばには、環境省が整備し、北海道森林管理局が管理する、溶岩の岩場と植物群落の探勝路があります。探勝路を歩いてみると、十勝岳の噴火でできた溶岩の岩場があります。溶岩がブロックのように積み重なっている様子を観察してみましょう。このゴツゴツした溶岩のすき間は、適度な温度を保つ空間と水はけの良さを持っており、エゾナキウサギ等の動物たちや、高山植物に住み良い環境を与えています。この溶岩は、今からおよそ300～500年前の噴火で流れた溶岩流の跡と考えられています。探勝路を辿って行くと、可憐な高山植物たちが目を楽ませてください。



エゾナキウサギの生息地にもなっている
およそ300～500年前の噴火で流れた溶岩の岩場



シラタマノキ
花期:夏



エゾオヤマノ
リンドウ
花期:8～9月

10 登山道沿いの沢(ガリー)

火砕流に蒸し焼きにされた木

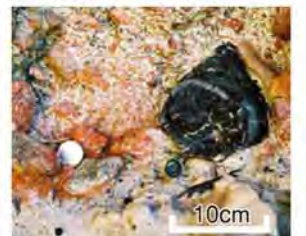
望岳台から10分ほど登山道を歩き、丸谷温泉遭難者慰霊碑から右の方向に少し進むと、雨水によって侵食された小さな沢(ガリー)があります。石や砂が集まってできているので脆く、流水があると横が崩れ落ち、ガリーの幅は広がっていきます。

このガリーの断面では、山頂付近から流れた火砕流の地層が見られます。火砕流とは、非常に高温の石や砂とガスが入り混じって、高速で流れ下る現象です。ここで見られる火砕流は、おおよそ3000年ほど前の噴火で流下したと考えられています。真っ黒な炭が見つかることから、当時生えていた木が高温の火砕流で焼かれたことが分かります。炭は、断面の下部にある、土が酸化して赤茶けた固い層の直下によく挟まっています。石が落ちてくるのに気を付けながら、炭を探してみましょう。



断面下部の赤茶けた層

侵食で広がる沢(ガリー)



10cm

赤茶けた地層の直下に挟まる炭



大正大爆発
丸谷温泉遭難者慰霊碑

11 ワイヤースセンサー

泥流発生を知らせる見張り番

十勝岳の泥流発生を感知して麓に知らせるワイヤースセンサーは、標高1320m付近の避難小屋跡から、標高930m付近の望岳台付近にかけて設置されており、その数は20基以上あります。ワイヤースが切れると、ふもとの様々な機関(十勝岳火山砂防センター・旭川開発建設部・旭川土木現業所・美瑛町役場・上富良野役場などに直ちに伝わるようになっています。



沢を横断するように設置されたワイヤースセンサー

12 九条武子歌碑

大正泥流後に十勝岳を望み読んだ歌

大正の噴火の後、歌人九条武子が旭川市内から十勝岳を望み詠んだ歌を石碑にしたもので、1929年(昭和4年)7月に建立されました。この石碑がある小高い岩山には泥流が届かず、ハイマツ林が残っていた場所です。石碑には、

「たまゆらの 煙おさめて静かなる
山にかへれば 見るに親しも」

(大災害を起こした不気味な山も こうして静かな姿に立ちかえったのを見れば、何か懐かしいものさえ感じる)と書かれています。

九条武子歌碑の近くの沢を登山道が横切るところで、

沢の中の岩に白～黄色の硫黄が付着しているものがあります。十勝岳では、かつて山頂付近で硫黄が採掘されていました。



登山道沿いの小高い岩山に建つ九条武子歌碑



硫黄が付着した岩

13 岡本三男記念碑

十勝岳を愛した林務官

富良野川の沢を吹上温泉側に登ってすぐの、ハイマツ群落のしげみの中に岡本三男記念石碑が建っています。岡本三男は、北海道庁に勤務した林務官(森林の管理や調査をする職員)でした。北海道の山をこよなく愛し、十勝岳にも何度も訪れていますが、残念ながら昭和20年に沖縄で戦死し、有志がその功績をしので、昭和29年に石碑を建立しました。

岡本三男記念碑のある付近を境に、大正泥流の被害を受けた後に植生が回復しつつある低木の区域と、被害を受けていないアカエゾマツ、ダケカンバ、ミヤマハンノキ等の青々とした原生林とに分かれます。



泥流が到達せず、残った原生林

泥流の被害を受けた後に育った低木群



岡本三男の記念碑

14 観測機器の小屋・十勝岳爆発記念碑

十勝岳観測の前線基地

登山道沿いに、大正泥流が到達しなかった原生林を抜けていくと、表面に木を貼り付けた小屋が建っています。これは、北海道の旭川土木現業所が建てた観測機器の小屋です。小屋の中や周りには、地面の振動をとらえる地震計や監視カメラ、雨量計など、様々な観測機器があります。

観測小屋のすぐ近くに、「十勝岳爆発記念碑」が建っています。大正泥流により硫黄鉱山や温泉街で犠牲になった人達は、現地で火葬されました。この方々を供養するために、1928年(昭和3年)10月に、この石碑が建立されました。



旭川土木現業所の観測小屋



十勝岳爆発記念碑

十勝岳山麓探索ガイド (上富良野コース)

- 企画・発行:北海道開発局 旭川開発建設部
〒078-8513 旭川市宮前通東4155番31 電話(0166)32-1111(代表)
- 制作:特定非営利活動法人 砂防広報センター
- 写真・地図提供(アイウエオ順)
旭川地方気象台、上富良野町教育委員会、(株)アドス・エージェンシー、美瑛町観光協会、北海道地図株式会社

十勝岳山麓体験学習マップ (上富良野コース)

凡例

- 徒歩
- 車
- トイレ
- 駐車場
- 広場・公園
- 屋内休憩施設
- 河川・池
- 主要幹線道路
- 砂防施設
- 大正泥流流下範囲

- 花の名所
- 進入禁止マーク
- 多目的トイレマーク
- バス停
- 携帯アンテナ
- ホテル
- 民宿・ペンション
- ギャラリー・ショップ
- カフェ・喫茶店
- レストラン
- ラーメン・そば
- 居酒屋・焼肉屋
- レンタサイクルショップ
- 銭湯・温泉
- 展望マーク



【ご見学の際には…】

- ゴミはお持ち帰り下さい。
- 立入禁止区域には入らないで下さい。
- 国立公園内では、植物等をとらないで下さい。
- 畑には入らないで下さい。



B 白金温泉～望岳台～吹上温泉周辺

美瑛町観光センター



④と⑤の見学は
ここから徒歩で。



④ 白金温泉・十勝岳流路工



流路工内は親水公園にもなっ
ていて歩道やせせらぎ水路がつけ
られています。

⑤ 十勝岳火山砂防情報センター



情報センターへ避難シェルターの階段を
登って行きます。(286段、約6分)



⑥ 望岳台



レストハウス
4月下旬～10月末営業



探勝路入口



⑨ 望岳台・探勝路



全周すると約1時間(約1.5km)
溶岩の岩場まで約30分

⑪ ワイヤセンサー



登山道沿いに
登って行くと
見つけられます。
望岳台から約20分(約1km)

⑫ 九条武子歌碑



望岳台から約30分(約2km)

大正泥流
流下範囲

★注意!!

登山道コースには溶岩の岩
場などがあり、滑りやすいの
で十分注意しましょう。

凡例

- 徒歩
- 車
- トイレ
- 駐車場
- 広場・公園
- 屋内休憩施設
- 河川・池
- 主要幹線道路
- 砂防施設

⑩ 登山道沿いの沢



望岳台から約10分(約0.5km)
丸谷温泉遭難者慰霊碑が目印で、
登山道を挟んで慰霊碑と反対側の
小さな沢に降ります。

⑭ 観測機器の小屋



望岳台から約80分(約3km)

⑦ 吹上温泉 保養センター白銀荘



登山道コース(徒歩)
望岳台から約100分(約3.5km)



⑬ 岡本三男記念碑



望岳台から約60分(約2.5km)

沢を横断 (飛び石つたい)



ひざこぞより上まで増
水している時は川を渡ら
ないようにしましょう

1km

291

353